



ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体

デュピクセント® 皮下注 300mgペン

DUPIXENT® デュピルマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

デュピクセント®の操作方法に関するご質問に、24時間365日、専任スタッフがいつでも対応します。

デュピクセント®相談室 **0120-50-4970**

24時間365日(フリーダイヤル)

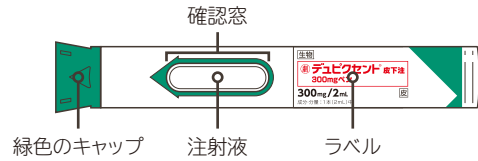
「おくすりに関するご質問」はサノフィくすり相談室で承ります。
くすり相談室 0120-109-905(フリーダイヤル)
月~金 9:00~17:00(祝日・会社休日を除く)

取扱説明書

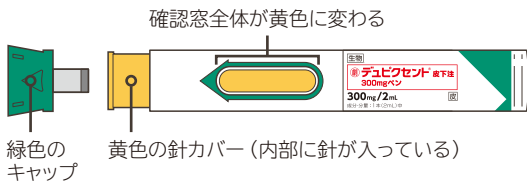
この取扱説明書は大切に保管してください。

各部の名称

【使用前】



【使用后】



このペンにはデュピクセント®300mgがあらかじめ充てんされています。皮下注射用で、1回のみ使用できる使い捨てタイプです。

大切なお知らせ

- 本剤をご使用になる前に、本書全体をよくお読みください。
- 本剤の投与方法の説明を受けるまでは、ご自身又はご家族への投与は行わないでください。
- 初めて自己注射を行う前に、医師又は看護師が患者さんやご家族の方に本剤の準備と投与方法についてご説明します。
- 投与間隔については、医師又は看護師に確認してください。
- 気管支喘息の12歳以上の子どもが投与する場合は、大人の方が投与を行うか、大人の方の監視のもとで投与を行ってください。
- 使用時に確認できるよう本書を保管してください。
- ご不明点がある場合は、医師又は看護師にご相談ください。

ご使用にあたってのご注意

- 注射部位は、毎回異なる部位を選んでください。
- 破損した注射器は使用しないでください。
- 緑色のキャップが紛失している、又はしっかり取り付けられていない注射器は使用しないでください。
- 黄色の針カバーを指で押し触れたりしないでください。
- 衣服の上から注射しないでください。
- 注射するまで緑色のキャップを外さないでください。
- 緑色のキャップを注射器に戻さないでください。
- 注射器は使用后すぐに廃棄してください。裏面の使用手順⑬をご参照ください。
- 注射器を再利用しないでください。

保管方法

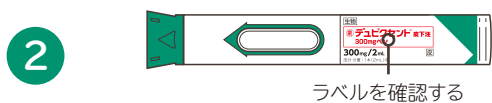
- 注射器は子どもの手の届かないところに保管してください。
- 未使用の注射器は2℃~8℃の冷蔵庫に保管してください。
- 光から保護するため、注射器は元の箱に入れたままにしてください。
- 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないでください。
- 注射器を振らないでください。
- 注射器を温めないでください。
- 注射器を凍らせしないでください。
- 注射器を直射日光の当たる場所に置かないでください。

使用手順

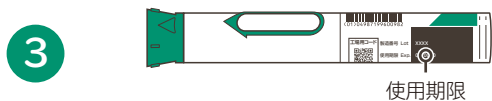


注射に必要なものを準備します。

- ▶ デュピクセント®皮下注300mgペン
- ▶ 消毒用アルコール綿1枚(注射器の箱には入っていません。)
- ▶ 廃棄用容器(注射器の箱には入っていません。)(手順⑬をご参照ください。)

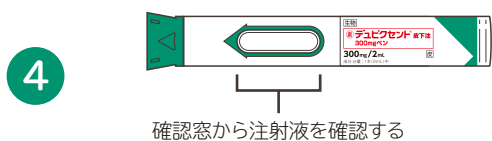


ラベルを確認し、注射器が「デュピクセント®皮下注300mgペン」であることを確認します。



使用期限が切れていないことを確認します。

注意 ■ 使用期限を過ぎた注射器は使用しないでください。



注射器の確認窓から、注射液が濁っていないこと、また色が無色から薄い黄色であることを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。

注意 ■ 注射液が変色している、又は濁っている場合、薄片や粒子が見られる場合は使用しないでください。
■ 確認窓が黄色い場合は、使用しないでください。

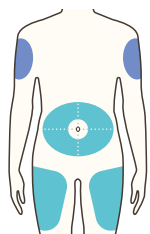


注射器を45分以上前に取り出して平らな場所に置き、室温に戻しておきます。

注意 ■ 注射器を温めないでください。
■ 注射器を直射日光の当たる場所に置かないでください。
■ 注射器を室温で14日以上放置しないでください。室温に14日以上放置された注射器は廃棄してください。

つづきは裏面をご参照ください。

6



■ 注射可能部位
■ 注射可能部位
(患者さんご自身が
注射する場合は避ける)

注射部位を選びます。

- ▶ 大腿部 ▶ 腹部(ハその周り5cmは避ける) ▶ 上腕部
- ご家族が患者さんに注射する場合は、上腕部の外側に注射することも可能です。
- 注射部位は、毎回異なる部位を選んでください。

▲ 注意

- 衣服の上から注射しないでください。
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に損傷、打撲や傷のある部位、アトピー性皮膚炎の強い炎症を伴う部位への注射は避けてください。

7



両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。

消毒用アルコール綿で注射部位を消毒し、

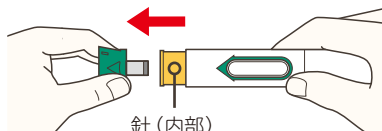
注射をする前に皮膚を乾かします。

▲ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

8

緑色のキャップをねじらず、まっすぐに引っ張る



針(内部)

緑色のキャップを外します。キャップを外す際は、

ねじらずにまっすぐ引っ張って外してください。注射の準備ができるまで、

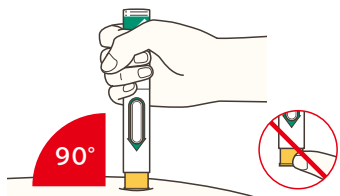
キャップは外さないでください。指で黄色の針カバーを触ったり、

押ししたりしないでください。針が内部に入っています。

▲ 注意

- 一度外したキャップは元に戻さないでください。

9



90°

注射器の黄色の針カバーを注射部位に当て、

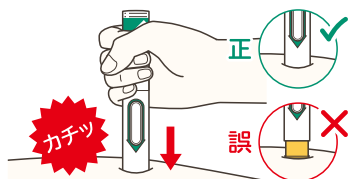
確認窓が見えるように持ってください。

このとき皮膚に対して約90度の角度となるようにしてください。

▲ 注意

- 指で黄色の針カバーを触ったり、押ししたりしないでください。針が内部に入っています。

10



カチッ

誤

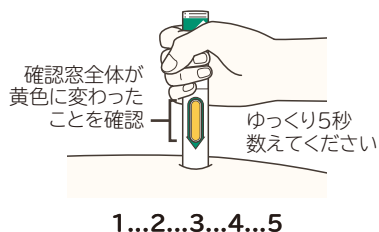
黄色の針カバーが見えなくなるまで、

皮膚にしっかりと押し当て、そのまま動かさしないでください。

注入が始まると、「カチッ」と音がします。

確認窓が黄色に変わりはじめます。注入には、最長20秒かかります。

11



確認窓全体が
黄色に変わった
ことを確認

ゆっくり5秒
数えてください

1...2...3...4...5

皮膚にしっかりと押し当て続けます。

再び「カチッ」と音が聞こえることがあります。

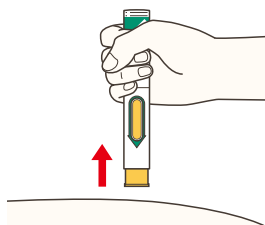
確認窓全体が黄色に変わったことを確認できたら、

ゆっくりと5秒数えてください。注射器を皮膚から離れたら、

注入は完了です。確認窓全体が黄色にならない場合は、皮膚から離し、

医師や看護婦に連絡し、医師の許可なく2本目の注射はしないでください。

12



注入が終わったら、

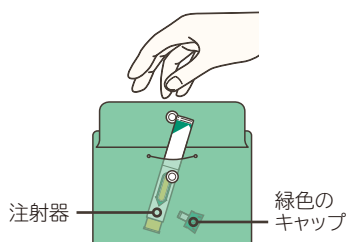
注射器をまっすぐに持ち上げ、皮膚から離してください。

出血がある場合は、消毒用アルコール綿で軽く押さえてください。

▲ 注意

- 注射後に皮膚をこすらないでください。

13



注射器

緑色の
キャップ

使用済みの注射器(針を含む)と緑色のキャップは、

使用后すぐに廃棄用容器に廃棄してください。

家庭ごみとして捨てないでください。

▲ 注意

- 一度外した緑色のキャップは元に戻さないでください。

製造販売：サノフィ株式会社

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

D0396701

SANOFI GENZYME 